

第2回 郡中200年祭実行委員会の概要報告

1. 開催日時 平成27年11月25日(水) 18時50分～21時10分
2. 開催場所 伊予市生涯研修センター さざなみ館
3. 出欠状況

実行委員 出席人数33名、欠席人数7名
アドバイザー 出席人数1名、欠席人数0名
オブザーバー 出席人数1名、欠席人数2名
事務局 出席人数4名、欠席人数0名

4. 第2回 郡中200年祭実行委員会 次第

○開会に先立ち伊予農業高等学校より「日本農業クラブ全国大会出場の支援について」の報告とお礼

1. 開会のあいさつ 株式会社まちづくり郡中 代表取締役 一色克仁
2. アドバイザーの紹介 愛媛大学社会連携推進機構教授 前田 眞
3. 資料の概要説明
4. 講演 「郡中200年祭の開催に向けて」
愛媛大学社会連携推進機構教授 前田 眞
5. 部会ごとのワークショップ
6. ワークショップ結果の報告と意見交換 (時間の関係で意見交換は割愛)
7. 閉会

(以下 敬称略)

5. 講演 「郡中200年祭の開催に向けて」

愛媛大学社会連携推進機構教授 前田 眞

自分が活動してきた観点から「郡中200年祭」をどう考えるか。

今、先進と言われているまちづくり活動は、ないものねだりをしない。目の前にあるものを生かしていくまちづくりが主流になっている。

愛媛大学は、地域課題を解決する人材を育成する方向に変えようと言いだめた。学生・地域の人・大学も一緒に、共に育つ(共育)共に創る(共創)。そういう概念で、地域の人達と一緒に若い人たちが育っていく社会を作りませんか、という事をやり始めた。

「郡中200年祭」も、郡中という名前がついて、2017年で200年になる。200年祭を契機として皆と一緒に創っていく、あるいは皆と一緒に育っていくプロセスを共有することは、これから郡中に関わる人達が増える、愛着を持つ人が増えて行くことにつながっていく。これは、萬安港ができて、郡中が発展しましたという事と同じで、200年祭をやって、郡中がより発展していく素地につながっていく。

共に育つためにはいろいろな事を勉強しないといけない。過去にどんな人達が、どんなふうに苦労して郡中を造ってきたのか。「これから自分達は場所を変えて郡中を造

っていく」という風な奮い立たせるような気持ちを引き起こすことをしていかないと
いけない。ここにいる皆が先兵として気持ちを周りの人達に伝えながら、新しい人を
巻き込みながらやっていく事は、これからの郡中を考える意味で大事である。さらに、
郡中だけの問題で無く、伊予市全体に波及する問題に繋がってくる。1つのエポック
を通して地域をともに考え、共に育ち、共に創っていく事を一緒にやっていく事がこ
れからの地域づくりには大事だし、地域の課題を解決するためにも、いろんな人材が
育って行く必要がある。

この機会をとらえて、自分たちの周りにいる人達を含めて一緒になってこれからの
郡中を考えていく、育って行くという事を皆で考えたら良いかなと思っている。

200年祭にむけて、皆でそういう目標を持って行くと、いろんなアイデアが、で
きないと思っていたことができたり、時間が無くてできないことが、時間をつくり出
すことにつながるかもしれない。そんな思いを皆で育てて行けば良い。そこで生まれ
たことは、華々しくなくても、子供たちの心にどれだけ残るか。そういう思いで実行
委員会に関わっていただいて、アイデアを出していただいて進めていけたら良いと思
っている。

6. ワークショップの結果

A部会 子供たちが町の歩みを学び合う企画と実行

出席アドバイザー： 前田 眞

出席委員：吉田京子、谷本圭司、奥野勝也、棟田隆治、中村禎司、坂本美保、
大政五十子、日野桂子、鶴岡正直、一色克仁

出席事務局：谷本照美

ワークショップの結果 発表者：前田 眞

今日の目標として「学び合うためのアイデアを出し合う」

[大人も子供も有志が集まってやらないとむづかしい]

- ・ 有志によるチームづくり 子供達は小・中・高のチームづくりがやり易いのか
(横で繋がりながら、結果的に縦に繋がっていくのは有り)
子供・大人・高齢者のチームづくり
- ・ チームづくりのエリアをどう考えるか(郡中のエリアってどこなのか)
- ・ どのくらいの期間やるのか。子供たちのモチベーションをどう作っていくか。
- ・ ゼロから作りあげるのはハードルが高い。大人も子供にも興味・魅力のある百円
商店街を1つのきっかけとして、チーム作りができれば良い
- ・ 百円商店街でブースを作って(クイズコーナー、郡中検定・・大人がしかける、
まち歩きの中で良い物探し・昔さがしをしながら)楽しんで来る人に呼び掛けて
新しいチームづくりをする。
- ・ 新しいチームが、次に何をするかを考えて、共に話し合いながら作り上げるとい
うステップを踏んでいけば良い。その仕組みができれば200年祭が過ぎても
持続的にチームができる。長い年月をかけると、そこで育った子供たちが中・高生
になった時、新しい中・高生が関わって行ける様なサイクルが生まれるかもしれ
ない。

B部会 まちづくりの歩みのシンボルゾーン「港と五色浜」に親しむ企画と実行

出席委員：毛利伍良、門田眞一、坪内寛、向井幹雄、宮内保雄、水口純子、
日野鈴香、隅田秀久（代理：平井）

出席事務局：石田照子

ワークショップの結果

発表者：門田眞一

1. 港を中心とした町 ～発展の過程と現在（どうであったか？）

2000年以前は 2000年前は 現在は

これから50年後・100年後は・・・と、思い浮かべながら



2. 五色浜を中心とした町（文化の里づくり・健康づくり）

- ・史跡を活かす。
- ・女性の視点を活かす。（五色浜海岸は、閑散期には怖い。単独で海岸散歩はできにくい。対策は・・・明るい周辺道路の整備を。）
- ・若い人を呼ぶ。（聖地の様なもの・イルミネーションなど）
- ・毎日くらい五色浜周辺の写真を撮っている人がいる。
（五色浜の海岸は素晴らしい。絵になる・・・フォトコンテスト等の開催は！）
- ・俳句や川柳の句碑づくり（年に1回大会を開き、優秀な人の句碑を創る
～松山市の椿神社にある玉垣のようなもの～高価にならない程度に）
- ・ウォーキングコースの設定（五色浜・湊町周辺の埋め立て地周辺）
- ・釣り大会の開催（比較的安全で、県下最大の釣り場である。）
- ・市外の人に伝えられていない魅力・テイストの発信を。（五色姫復活祭など）
- ・緑・運動・食事できるアクセスの周辺案内板の設置（R56～市役所通り、港南団地前から）と若者の心を引き付ける場所に。駐車場の整備を。
- ・無料案内パンフレット、五色浜の写真などを郡中駅、郡中港駅、JR伊予市駅、松山市駅、JR松山駅、インターネットで配信する。
- ・今あるものを最大限に活用。（松林・彩濱館）
- ・五色浜グラウンドで運動をして、緑・海を見て休み、花かつおを使った料理を食べられる。

*郡中の良さを、外から見えている物も内に居ると見えない事があるので、住んでいる人たちの、感受力・体験力を高めるにはどうしたら良いかを、一つの課題としてやらないといけないのではないかと感じている。

C部会 雇用や暮らしを支える産業を学び合い育てる企画と実行

出席委員：中尾均、徳田和敏、岡崎良三、一色喜代子、桐嶋正彦、加納祥一
市野孝俊（代理：福岡）、徳本研三

出席事務局：重松佳子

ワークショップの結果

発表者：桐嶋正彦

郡中の産業はいろいろあるが、今日は、伊予鉄道に絞って話をした。

郡中の発展も、伊予鉄道があつてこそ、という事で・・・

- ・昔は、伊予鉄道は荷物を運んでいた。
- ・私鉄の中で、日本で二番目に古い。

① 伊予鉄道郡中線の歴史を学んでみよう！！

電車を見て、子供たちが楽しんで手を振ったり、夢がある乗り物で、大人にとってもそうである。

② 皆が思い出を作れる企画を考えて行こう！！

例えば 鉄道ツアーをしてみよう

みんなで手を振ってみよう

具体的な企画はこれからだが、皆が思い出を作れる企画を作っていきたい。

D部会 お宝発見・再発見、その他の企画と実行

出席オブザーバー：稲田里香

出席委員：土居裕和、渡辺大記、高田裕司、川口和代、若松一心、谷岡扶美、武内英治、
武智忠広

出席事務局：安田絹代

ワークショップの結果

発表者：稲田里香

●昔の写真、プライベート写真など、当時の郡中の様子がわかる写真の展示はどうか。

例えば

- ・郡中ひなかざりのときに昔のひなまつりの写真を展示しては・・・
- ・海に、なぎがあつたことや浜があつたこと、網を引いていたなど・・・
- 今の子供たちが知らない昔のを見せてあげることができる写真など。
(昔を振り返ることができるのでは・・・)

●商店街の店にのれんをかけていくプロジェクトを立ち上げてはどうか。

例えば、店によって色やデザインの違う、何屋さんかわかるようなもの。

商店街にのれんがあると ・街並みに統一感が出る

- ・通り自体が楽しくなる
- ・のれんを見ながらの街歩きが出来る

(200年祭の後ものれんのある街として継続できるのでは・・・)

●子供たちにナイトウォークを体験してもらってはどうか。

- ・郡中を核に双海へ、中山へ、三津へ・・・昔は歩いて移動していた所まで歩いてみる。最後には大洲まで歩くという大きなチャレンジが出来たら楽しいのではないか。

●松山の人に郡中に来てもらうことを考えていくことが大切ではないか。

- ・伊予鉄など公共交通機関に協力してもらうには、具体的な提案を持ち掛けなくてはいけない。

当日のようすを写真で紹介します

アドバイザー 愛媛大学社会連携推進機構 教授 前田 眞



「郡中200年祭の開催に向けて」前田 眞氏の講演



A部会 ワークショップのようす



B部会 ワークショップのようす



C 部会 ワークショップのようす



D 部会 ワークショップのようす

－ 第3回 郡中200年祭実行委員会メモ －